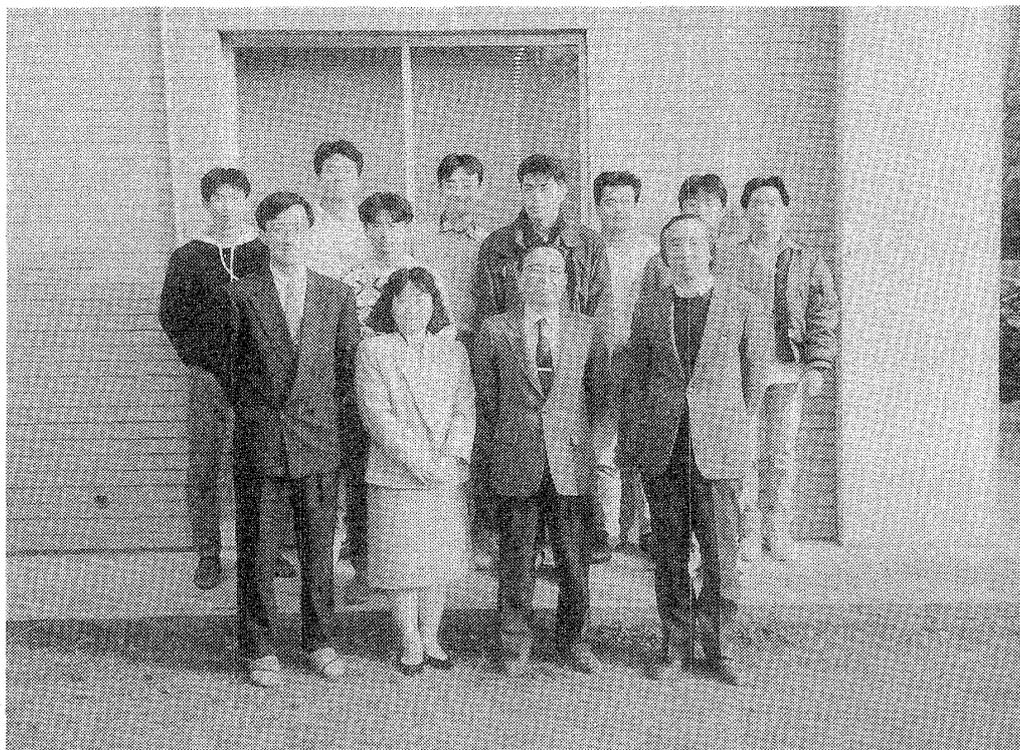


## 研究グループ紹介

# 山梨大学工学部 松本・坂井・竹内理論研究グループ

(1993年12月10日受理)



我々研究グループの職員は、松本道男(教授)、坂井一雄(教授)、竹内智(助教授)及び小河輝子(事務官)で、山梨大学工学部電子情報工学科に所属しております。学生は学部生と大学院生合わせて約10名がきて、セミナーに参加し卒論修論の作成に精を出しております。昨年度から博士後期課程が発足しましたが、未だその学生はきておりません。研究テーマの主体は“荷電粒子と電磁波との相互作用の理論的研究”です。最近、負イオンを含む放電プラズマの特性、ニューロンの信号伝達等の解析も手がけております。

学生は来研当初理論ということで少々戸惑いがあるようですが、教官の指導のもと真面目に勉学

に励んでおります。しかし、時間の使い方が比較的自由にできるためか、これまでに異色の学生が多々現れています。例えば、セミナーには一応出席して卒論の体裁を調べ卒業し、医大に進んだ者、また冬のオホーツク海を旅行して卒業できず、就職をフイにした者等。また、当初の学生の顔ぶれは、授業の折教室で会っているはずですが、余り記憶になく何処かで会ったと云った感じの程度であります。それは、その授業が大体に低学年の科目であったためです。

担当する授業科目は、学部では“応用数学”“力学”等の教物関係の基礎的科目、大学院ではプラズマ物理に直接関係する科目です。授業のための

資料作りはすべて小河事務官に頼んでいます。彼女は教官研究室並びに学生達の部屋に対してほぼ中央に位置する部屋に居て、論文の清書を始め研究・教育上の事務的すべての仕事について細かな指示をしなくてもスムーズに処理しております。そこには、また教官が何かにつけて出かけ、彼女の用意するお茶を呑みながら話し合い、講座として情報交換の場とする習慣ができております。

我々がグループとしてプラズマ理論の研究活動を始めたのは1970年代の後半頃からです。当時は、工学部の凡ての共通講座を集めて1つの教室(工学基礎教室)をつくり、その教官が工学部の全学生に基礎的な数学、物理学及び化学に関する全授業科目を担当していました。当時、その教室には工学部の数学は物理出身者に担当させるという思想があり、理学部的雰囲気のもとに我々理論屋が集うことができました。その頃、現プラズマ科学センターの杉原先生が何回か来甲してくれ

ました。我々と共に研究討論、研究計画等話し合ったことが我々グループにとって大きな刺激になっております。

山梨大学(工学と教育の2学部編成)は、戦国時代の英雄武田信玄の居城があった古都甲府にあります。囲りは閑静な住宅街で、秋には各種のぶどうのみのもりと共に山々の紅葉が誠にみごとです。既に、数年以上前になりますが、当地で科研費による“プラズマの波動加熱に関する研究会”が開かれた折、大学で研究用に作られたワインを貰い受け、懇親会の席で皆さんに試飲して頂き大変好評を得たことが思い出されます。夏は盆地特有の暑さで閉口しますが、近く八ヶ岳山麓の町清里にある大学の宿泊施設に簡単に出かけることができ、遊び・趣味をかねての勉強会、また手軽な登山等を楽しんでいます。

(松本道男/山梨大学工学部)

